

# 国語科小学校 第3学年

## A 「話すこと・聞くこと」の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「調べたことを話したり聞いたりする活動」		
<p>相手を見て話したり聞いたりすることにより、聞き手の反応を見ながら話したり、同感や共感、疑問など、話に対する反応を示したりしている。</p> <p>相手や目的に応じて、丁寧な言葉を使うなど、敬体と常体との違いに注意して話している。</p> <p>説明をする中心と、その事柄に興味をもった理由や事例など、情報と情報との関係について理解している。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、日常生活の中で興味や関心をもっていることや、本や文章を読んだり人に聞いたりしながら調べたことから、説明や報告をする必要のある事柄を選んでいる。</p> <p>「話すこと・聞くこと」において、分かりやすい理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。</p> <p>「話すこと・聞くこと」において、話の中心を明確に捉えて話すとともに、目的や場の状況などを意識し、抑揚や間の取り方などを工夫している。</p> <p>「話すこと・聞くこと」において、事柄の順序など話の組み立てを意識しながら話の要点を捉えたり、自分が聞きたいことは何かを確かめたりしながら聞いている。</p>	<p>興味をもっていることや調べたことを相手に分かりやすく伝えるために、学習の見通しをもって、伝える必要のある事柄を選び、進んで話の構成を考えて話し方を工夫したり、聞き手の反応を見ながら話したりしようとしている。</p>
「情報を集めたり発表したりする活動」		
<p>相手を見て話したり聞いたりするとともに、聞き手の反応を見ながら話したり、同感や共感、疑問など、話に対する反応を示したりしている。</p> <p>相手や目的に応じて、丁寧な言葉を使うなど敬体と常体との違いに注意して話している。</p> <p>話の中心と、それを支える理由や事例など、情報と情報との関係について理解している。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して集めた材料を共通点や相違点に着目しながら比べたり分類したりしている。</p> <p>「話すこと・聞くこと」において、話し手が伝えたいことの中心を捉えるとともに、自分が聞きたいことの中心を明確にして聞き、必要な内容を記録したり、分からない点や確かめたい点を質問したりしている。</p>	<p>学習課題に沿って、情報を集めたり発表したりする活動を通して、話の中心とそれを支える理由や事例を理解し、集めた材料を進んで共通点や相違点に着目しながら比べたり分類したりしようとしている。</p>

<p><b>「グループで話し合う活動」</b></p>		
<p>言葉には、自分の思考や感情を表す働きがあることに気付いて話したり聞いたりしている。</p> <p>相手を見て話したり聞いたりすることで、聞き手の反応を見ながら話したり、同感や共感、疑問など、話に対する反応を示したりしている。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、日常生活の中で興味や関心をもっていることから話し合うために必要な事柄を提案し、話し合いたいことを決めている。</p> <p>「話すこと・聞くこと」において、互いの意見の共通点や相違点に着目し、互いの意見を比較したり、それぞれの考えの根拠などに目を向けたりしながら考えをまとめている。</p>	<p>グループで話し合う活動を通して、積極的に話に対する反応を示し、互いの意見を比較したり、考えの根拠に目を向けたりしながら考えようとしている。</p>
<p><b>「学級全体で話し合う活動」</b></p>		
<p>言葉には、自分の思考や感情を表す働きがあることに気付いて話したり聞いたりしている。</p> <p>相手を見て話したり聞いたりするとともに、聞き手の反応を見ながら話したり、同感や共感、疑問など、話に対する反応を示したりしている。</p> <p>話の中心と、それを支える理由や事例など、情報と情報との関係について理解している。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、興味や関心をもっていることから話し合うために必要な事柄を、結論の一つにまとめるということを意識して提案し、話し合いたいことを決めている。</p> <p>「話すこと・聞くこと」において、話し合う目的や必要性を意識して話し合いを進めるために、司会者、提案者、参加者それぞれの役割を理解し、話題に沿って話し合いを進めている。</p>	<p>今までの学習を生かして学級全体で話し合う活動を通して、聞き手の反応を見ながら話したり、自分の役割を意識したりしながら、積極的に話題に沿って話し合いを進めようとしている。</p>

## B 「書くこと」の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>「調査報告文を書く活動」</b></p>		
<p>主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。</p> <p>考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。</p> <p>比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方理解し使っている。</p> <p>読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。</p>	<p>「書くこと」において、身の回りの事柄や学習したことなどについて、不思議に思ったり疑問に思ったりしたことから調査したい題材を決め、相手や目的を意識して、集めた材料を比較・分類して、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>「書くこと」において、書く目的や必要に応じて理由や事例を挙げていることが読み手にも伝わるように表現を工夫している。</p> <p>「書くこと」において、事実をもとに、情報の収集や題材の設定が明確になっているかなど文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。</p>	<p>身の回りの事柄や学習したことなどを報告する活動を通して、学習の見通しをもち、相手や目的を意識して取材をしたり、集めた情報の関係性を考えたりしながら、進んで報告文を書こうとしている。</p>

### 「行事の案内文を書く活動」

漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。

「書くこと」において、行事の案内を伝える相手や目的に応じて、伝える事柄を決めている。

「書くこと」において、書いた案内文を読み返し、必要な情報が漏れなく書かれているか、相手や目的にあった文末表現になっているかなどを確認している。

学習の見通しをもち、読み手を意識しながら情報の過不足を考えたり、読み手にとって読みやすい書きぶりになっているかを考えたりしながら、進んで書こうとしている。

### 「お礼の手紙を書く活動」

漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。

丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。

「書くこと」において、読み手に伝えたい思いや考えが明確になるように、事例や理由を明らかにして文章を書いている。

「書くこと」において、手紙を読み返して、送り仮名、句読点、敬体と常体の使い分け等の間違いを正したり、相手やお礼をする目的を意識した表現になっているかを確認したりして文章を整えている。

お礼の手紙を書く活動を通して、読み手にお礼の気持ちを伝えたいという意識をもち、表記の仕方や言葉遣いに対して注意しながら、感謝の気持ちを込めてお礼の手紙を書こうとしている。

### 「詩を書く活動」

丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。

言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。

様子や行動、気持ちや性格を表す語彙の量を増し、文章の中で使っている。

「書くこと」において、身近なことから、自分の思いに合った情景や自分の心を動かした出来事を詩の題材として選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。

「書くこと」において、詩の題材の中から自分の気持ちを表現するのにふさわしい場面や情景を選んで、詩の書き表し方を工夫している。

「書くこと」において、詩を読み、心に残った表現や改行形式などの書き方の巧みさについて意見を述べ合い、自分の表現のよいところを見つけている。

身近なことから題材を選んで詩を書く活動を通して、自分の気持ちを表現する楽しさを感じながら、語彙の量を増やしたり書き表し方を工夫したりし、表現のよさを見つけ合いながら詩を書こうとしている。

「物語を書く活動」		
<p>様子や行動、気持ちや性格を表す語彙の量を増し、文章の中で使うとともに、言葉には役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。</p> <p>主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。</p> <p>読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。</p>	<p>「書くこと」において、登場人物や場面設定、事件とその結末など、物語の基本的な構成や、話の筋を考えている。</p> <p>「書くこと」において、主人公の性格を設定し、その性格を表す行動や会話を工夫して書いている。</p> <p>「書くこと」において、物語を読み合い、主人公の設定や、事件とその解決が繰り返される構成の書き方の巧みさなどについて感想を伝え合うとともに、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。</p>	<p>物語を書く活動を通して、学習課題に沿って物語の構成や登場人物の設定を考え、必要な語彙や書きぶりなど読み手を意識しながら工夫して書こうとしている。</p>

### C 「読むこと」の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「説明・解説した文章を読み説明する活動」		
<p>主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、意味段落等を捉え、その役割を理解している。</p> <p>考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。</p>	<p>「読むこと」において、「始め—中—終わり」などの段落のまとまりや、考えとその事例などの段落相互の関係を捉え、自分の説明の仕方の全体構成を考えている。</p> <p>「読むこと」において、中心となる語や文を選んで、元の表現を生かしたり自分の言葉を用いたりして、分かったことが端的に説明できるよう分量を考えて要約している。</p> <p>「読むこと」において、文章を読んで興味をもったことや初めて知ったことなどについて、感想や自分の考えをまとめ、伝えている。</p>	<p>説明的な文章を読んで、理由や事例などの段落相互の関係に着目して構成を考えたり、本文を引用したりして積極的に自分が分かったことを説明しようとしている。</p>

「記録や報告の文章を読み意見を述べる活動」

<p>主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割等について理解している。</p> <p>比較や分類の仕方を理解し、情報を整理している。</p>	<p>「読むこと」において、結論とその理由などの段落相互の関係に着目し、調査の道筋や考えの進め方を捉えている。</p> <p>「読むこと」において、自分が興味をもったことが伝わるように、必要な情報を見付け、自分の言葉で言い換えるなどしながら要約している。</p> <p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことについて、自分の体験や既知の内容と結び付けて自分の考えを形成している。</p> <p>「読むこと」において、文章を読んで最も興味をもったことなど感じたことや考えたことを発表し合い、他者の感じ方のよさに気付いている。</p>	<p>説明的な文章を読んで考えをまとめるために、段落相互の関係に着目し、必要な情報を短くまとめたり、自分が分かったことや考えたことを本文を引用しながら意見を述べ合ったりして、積極的に互いの感じ方や考え方のよさを認め合おうとしている。</p>
---	---	--

「本の紹介をする活動」

<p>様子や行動、気持ちや性格を表す語句や、感想、紹介の語句の量を増している。</p> <p>紹介したい部分や場面の様子がよく分かるように音読している。</p> <p>新しい世界に触れて自分の興味が広がる楽しさを味わい、本の種類など読書の幅を広げている。</p>	<p>「読むこと」において、登場人物の紹介をするため、行動や気持ちなどについて、境遇や行動の背景など複数の叙述を基に捉えている。</p> <p>「読むこと」において、話の面白さを説明するため、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、複数の叙述を関連付け、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。</p> <p>「読むこと」において、自分が選んだ本について、自分が文章をどのように捉え、理解したのかを基に、選んだ理由を明らかにして紹介している。</p>	<p>紹介したい本について説明するために自らいろいろなジャンルの本を選んで繰り返し読み、登場人物の気持ちの変化や性格を複数の叙述を関連付けて具体的に想像したり、自分の考えにぴったり合う紹介の言葉を選んだりして、本を選んだ理由を明らかにしながら紹介しようとしている。</p>
---	--	--

「読書会をする活動」

<p>様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、読書会の中で感想語彙を使っている。</p> <p>読書によって、新しい世界に触れて自分の興味が広がる楽しさを味わい、自分の読書の幅を広げている。</p>	<p>「読むこと」において、複数の叙述を結び付け、気持ちの変化や変化のきっかけ、登場人物の性格を思い描いたり、場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちと併せて情景を想像したりしている。</p> <p>「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、文章のどこに着目しているか、どのような思考や感情、経験と結び付けて読んでいるかによって一人ひとり違いがあることに気付き、互いの考えを理解している。</p>	<p>読書会をするために、文章のどこに着目し、どのような思考や感情、経験と結び付けて読んだかを明らかにしながら、物語を繰り返し読み、自分の感想や考えを述べようとしている。</p>
--	--	---

<b>「詩を読む活動」</b>		
<p>事柄や人物などの様子や特徴を表す語句、人物などの行動や気持ちを表す語句の量を増している。</p> <p>詩の内容や情景を想像し、自分の思いと合わせながら音読している。</p>	<p>「読むこと」において、詩が凝縮した表現であること、普通の文章とは違った改行形式や連による構成になっていることなど、詩の基本的な特徴を理解している。</p> <p>「読むこと」において、詩を読んで印象的な表現を捉えたり、伝わってくる情景を想像したりしている。</p> <p>「読むこと」において、詩集を読んで感じたことを発表し合い、一人ひとりに伝わってくる情景や印象について違いのあることに気付いている。</p>	<p>詩の特徴に気付き、印象的な表現を捉えたり情景を想像したりして読み味わい、一人ひとりの感じ方の違いに気付いたり、好きな詩を見付けたりしながら、楽しんで詩集を読もうとしている。</p>

<b>「課題について調べてまとめる活動」</b>		
<p>比較や分類の仕方、必要な語句の書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。</p> <p>疑問に思っていることが解決するなど、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づき、必要な本の選び方を身に付けている。</p>	<p>「読むこと」において、自分の課題について調べるために、事典や図鑑などから必要な情報を見付け、中心となる語や文を選び分量を考えて要約している。</p> <p>「読むこと」において、文章をどのように捉え、理解したのか、疑問点や更に知りたい点は何かなどを見いだして、感想や考えをもっている。</p> <p>「読むこと」において、自分の課題を解決するために、読みたい内容と関連する他の本や文章を探して読み、考えたり理解したりしたことを共有して、他者の感じ方などのよさに気付いている。</p>	<p>自分の課題を解決するために、解説の手掛かりとなる本や文章を検索して見付けたり、さらに知りたいことを粘り強く調べたりして、文や文章の選び方や要約の仕方を工夫して、自分の考えをまとめようとしている。</p>

## 「書写」の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>「ポスターを書く活動」</b>		
<p>部首と他の部分との組立て方（左右、上下、内外など）を意識して、誰もが読みやすいように形を整えて書いている。</p> <p>行の中心や行間、字間がそろっているかなど、文字配列や複数の文字列に注意して書いている。</p> <p>筆圧を変化させる左右払いやほぼ等しい筆圧で書く横画など、面の書き方と筆圧を関連付けて書いている。</p>	<p>相手や目的に応じて文字の大きさや配列について見直したり、グループなどでよりよい表現について話し合ったりしながら書いている。</p>	<p>伝えたいことをよりよく表現するために、行の中心や行間、字間がそろっているかなどを繰り返し考えたりしながら書こうとしている。</p>

「相手に伝えるために伝達メモをとる活動」

部首と他の部分との組立て方（左右、上下、内外など）を意識して、メモを渡す相手が読みやすいように形を整えて書いている。

メモを渡す相手が読みやすいように行の中心や行間、字間がそろっているかなど、文字配列や複数の文字列に注意して書いている。

メモを渡す相手が読みやすいように筆圧を変化させる左右払いやほぼ等しい筆圧で書く横画など、画の書き方と筆圧を関連付けて書いている。

文字の大きさ、行間などを考え、相手が読みやすいように書いている。

書く場面の状況によって書く速さが決まってくることを理解して書いている。

目的に応じた速さで効果的に書くために、行の中心や行間、字間がそろっているかなどを考えながら、相手が読みやすいように積極的にメモを取ろうとしている。

「自分のために聞き取りメモをとる活動」

部首と他の部分との組立て方（左右、上下、内外など）を意識して、自分が読み返したときに読みやすいように形を整えて書いている。

文字の大きさ、行間などを考え、相手が読みやすいように書いている。

書く場面の状況によって書く速さが決まってくることを理解して書いている。

目的に応じた速さで効果的に書くために、行の中心や行間、字間がそろっているかなどを考えながら、積極的にメモを取ろうとしている。

「手紙を書く活動」

部首と他の部分との組立て方（左右、上下、内外など）を意識して、手紙を送る相手が読みやすいように形を整えて書いている。

漢字や仮名の大きさ、配列、行の中心や行間、字間など、文字配列や複数の文字列に注意して書いている。

毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書いている。

相手に思いが伝わるように目的に合った適切な形式に沿って書いているか、文字の大きさを工夫しているかなどを考えて書いている。

相手に思いが伝わるように、相手や目的に応じて、漢字や仮名の大きさ、配列、行の中心や行間、字間などを考えながら、進んで手紙を書こうとしている。

「書初めを書く活動」

毛筆の姿勢や筆の持ち方を理解して、形を整えて毛筆で書いている。

仮名は漢字よりも小さく書くといった文字の大きさ、配列などに注意して書いている。

毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書いている。

これまで受け継がれてきた我が国の豊かな文字文化を理解し、身近な文字を毛筆で表すことを考えて書初めを書いている。

我が国の豊かな文字文化を理解し、身近な文字を毛筆で表すことの意味を考えながら、今までの学習を生かして進んで書初めを書こうとしている。